

研究実施のお知らせ

2024年04月17日 ver.1.0

研究課題名

顎矯正手術における下顎正中骨切り術の予後に関する後方視的観察研究

研究の対象となる方

2020年8月から2024年3月の間に島根大学医学部附属病院で顎変形症と診断され、顎矯正手術を受けた患者さんの中で、下顎正中骨切り術を含む手術を受けられた方

研究の目的・意義

上アゴの歯並びに対して、下アゴの歯並びの幅に差がある場合、通常実施される上アゴと下アゴへの顎矯正手術だけでは手術後の噛み合わせが不安定となります。この上アゴと下アゴの歯並びの差による問題は、術前の歯列矯正治療にて下アゴの歯を多数同時に移動して、下アゴの歯並びを拡大したり、狭めたりすることでは骨の形の位置関係の制約を受けることから解決することができません。この問題を解決する1つの術式として「下顎正中骨きり術」の適応があります。下顎正中骨きり術は下アゴを正中で離断することで、下アゴの前歯を中心とし奥歯周囲のアゴの骨の幅を拡大または狭くすることのできる術式です。術前に検討した幅を大きくしたり、小さくさせることによって、調和の取れた上下の歯並びとなり、安定した噛み合わせを得ることができます。しかし、下顎正中骨きり術自体は以前から様々な顎変形症（アゴの変形）疾患において使用される術式であるものの、顎変形症患者における術後経過については報告がほとんどない現状にあります。そこで本研究は、島根大学医学部附属病院歯科口腔外科にて下顎正中骨切り術を受けた方を対象とした調査を実施します。

研究の方法

本研究は、島根大学医学部附属病院歯科口腔外科にて下顎正中骨切り術の実施が開始された2020年8月1日から2024年3月31日までの間に、下顎正中骨きり術を含む顎矯正手術を受けた顎変形症患者を対象とした術後臨床経過の調査を実施することにしました。

診療録から利用する情報は年齢、性別、体格指数（Body Mass Index）、初診日、手術病名、既往歴、手術日、術式、下顎骨幅径変化量、術後合併症などです。得られたデータは一般的な集計や統計学的な解析を行います。診療録より情報を入手する際には、研究でのみ使用する専用の番号によってデータ管理を行い、個人が識別できない形で使用します。

研究の期間

2024年6月21日～2025年12月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部歯科口腔外科学講座 管野貴浩

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2024年12月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：管野貴浩

島根大学医学部歯科口腔外科学講座／附属病院歯科口腔外科 管野貴浩

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2301 FAX 0853-20-2299